

「うちのみんなでぞうさんのお世わをしているよ」

岡崎 三蒔（おかざき さんじ）5歳

玖珂保育園（山口教区）

●表紙のことば●

「ぞうさん、おつきかったなー！」さんじさんは、そう言いながら、最初に絵の具でぞうを描きました。遠足で動物園に行き、実際に見た時の驚きを思い出しながら描いていたことが覗えます。そのあと、クレヨンでうちの人を描いていきました。そして、にんまりしながら「お兄ちゃんが餌をあげてるんよ、ぞうさんの上にお母さんが乗ったら虹が見えたんよ。」と楽しそうに教えてくれました。このことから描きながら楽しく想像を広げていったことがわかります。幼児に、ただ経験したことを再現させようとしても、意欲的に取り組みにくいものです。そのことを知っている先生は、「ぞうさんと、もし一緒に遊べるならなにをしたい？」と問いかけました。さんじさんは、遠足の前に、ぞうの出産やそのお世話をする飼育員さんのドキュメント放送を見たことも相まって、遊ぶというよりも、家族全員でぞうさんのお世話をしたいという願いを思い立ち、想像の世界の中で実現していったのです。



おお はし いさお
大橋 功
和歌山信愛大学